

**【参考資料】**

**第1回ワークショップの復習**

# 算定方法の考え方

## ●家庭部門・廃棄物部門

- ・できるだけ積み上げ方式を採用することが望ましい。  
→ 対策効果が、温室効果ガス排出量に反映されるため。
- ・電気、都市ガス消費量等は、エネルギー消費量を把握することが可能な場合がある。
- ・環境省が公表しているCO<sub>2</sub>排出量のうち、廃棄物部門は、広域処理を実施している自治体で年間焼却量が把握できない場合、排出量が「0」となっており、実態と乖離している。0となっている自治体は、自ら算定する必要がある。

## ●その他の部門

- ・人口規模が小さい自治体は、按分法を活用することが考えられる。  
※マニュアルの積み上げ法を採用する場合でも、業種やエネルギー等の原単位等からの算定となるため、完全な積み上げ法で算定することは難しい。

# 【算定方法】

## 按分、積み上げ法の基本式の復習

### 【按分方式の算定式】

CO<sub>2</sub>排出量[千トンCO<sub>2</sub>]

$$= \frac{\text{①都道府県の部門別炭素排出量}}{\text{②都道府県の活動量（世帯数等）}} \times \text{③市区町村の活動量（世帯数）} \times \frac{44}{12}$$

### 【積み上げ方式の算定式】

CO<sub>2</sub>排出量算定の基本式

- ①エネルギー種別消費量 × 熱量換算係数 = エネルギー消費量(J)
- ②エネルギー消費量(熱量換算後) × CO<sub>2</sub>排出係数

# 【算定方法】

## 積み上げ法による家庭部門算定の復習①

### 【積み上げ方式の算定式】

#### ①家庭部門電気のCO2排出量算定のポイント

- ・地域の電気使用量のデータは、電気事業者にお問い合わせで把握できる可能性がある。
- ・電気の排出係数は、電気事業者別に毎年変わる(発表される)ので、注意が必要。

#### ②家庭部門都市ガスのCO2排出量のポイント

- ・地域の都市使用量のデータは、ガス事業者にお問い合わせで把握できる可能性がある。

# 【算定方法】

## 積み上げ法による家庭部門算定の復習②

### 【積み上げ方式の算定式】

#### ③家庭部門プロパンガスのCO<sub>2</sub>排出量算定のポイント

- ・プロパンガス使用量は、基本的に市町村レベルのデータがないため、県の統計データの按分となる。
- ・プロパンガスを使用する世帯数は、全世帯から都市ガス供給戸数を減じて把握する

※プロパンガスは「m<sup>3</sup>」で把握することが想定されるが、重量に換算しなくてはならない。1 m<sup>3</sup> = 1.8954kg

#### ④家庭部門灯油のCO<sub>2</sub>排出量算定のポイント

- ・プロパンガス使用量は、基本的に市町村レベルのデータがないため、県の統計データの按分となる。
- ・灯油を使用する世帯数は、市町村データがないため、全国の灯油使用世帯割合(灯油及びプロパンガス消費実態調査)に世帯数を乗じて把握する。